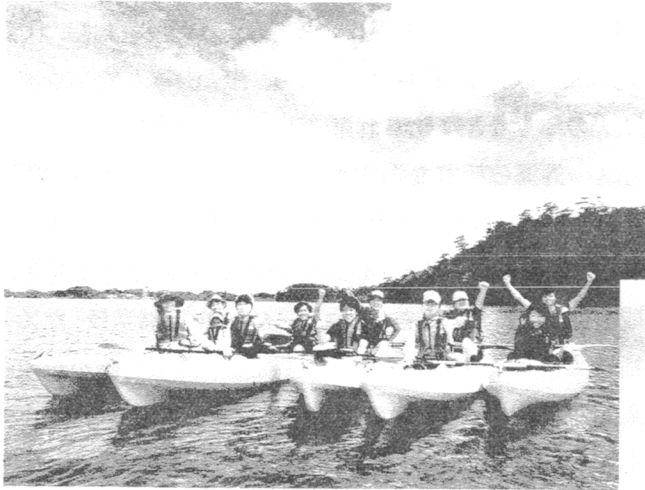


海人・文化・大自然にめぐり会い、 自分をふりかえった

第8回沖縄エコツアー特集

初めてのカーヌーのほすが、この雄姿



備瀬海岸の海の中、魚と泳ぐ



伊江島を望むゴミ拾いした備瀬海岸で、ほっくり

NPOの発足と同時に始まった沖縄エコツアー。今年で8回目を迎え、9月5日から、8日の3泊4日で行われた。参加者11名のうち、学生5名、教育者を含む社会人5名（子一名）の旅では、例年に増して、地元の方との熱い交流や、ゴミ拾いを含む自然環境保護活動、マリンスポーツを堪能し、毎晩、楽しみながらも熱心なふりかえりが行われた。以下、その一端をお伝えしたい。

★ ○ ♥ センスオブアースからのご案内 ★ ○ ♥

黄色硬式のテニスボール無料で

教室の机・いすの足に提供します。

必要な学校・保育園などございましたらご連絡ください。

「放射線の被ばくから体を守る生活の仕方。」2時間プログラム
秋シリーズ 10/15～11/2

放射線計測器40台使用します
申し込み受け付け中

連絡先

TEL・FAX共通 03-3960-6052 (センスオブアース)

今年度は、参加者に専門職の方が多くエコツーリズムや人・伝統文化・大自然の関係などを深めることができた印象深い旅となった。

法政大学 梶裕史先生 (専門一民俗学・日本古代文学)

「文化的景観とエコツーリズム。その土地に生活している人が観光地化されず、だれが来ようが来まいが、関係ないもの。エコツアーはその場所の暮らしや文化を知ってこそ、初めてツアーなのではないか。色々な人とのつながりを通して、“生き方”を感じ、自分の暮らしをふりかえるのが本当のエコツアーである。今後が楽しみである。」

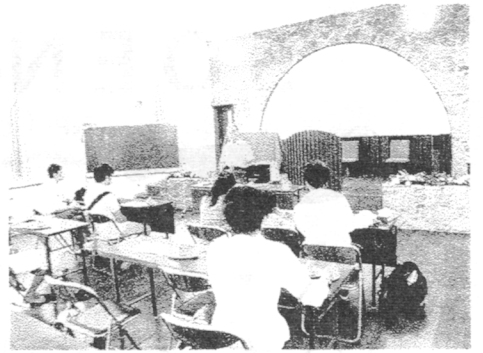
「八重岳の比嘉さんの自然農耕は、沖縄じゅうに少しずつ広がっている動きの良い例である。本土復帰後の土地改良（実際は改悪）により、赤土が大量に流出する農地環境になってしまった反省に基づく新たな環境保全型農業という意義も持っている。」「噂に聞いていた備瀬の海でたっぴりとシュノーケリングをし、評判通りの海だと実感した。サンゴは八重山などの離島などに比べれば、さすがに少ないものの、魚の種類や量は、離島に引けをとらない。潮通しがよく、外海の新鮮な海水が供給されているためかと思う。シヌグ祭、ノロさんが、豊漁を願う



教育者 本間信治先生

「備瀬海岸周辺を清掃ボランティア。不法投棄と思われる多様なゴミがあり、モラルの課題を感じた。でも、汗をかいての作業は気持ちがいい。水がおいしい。美しい海での海水浴は気持ちがよかった。この海の豊かさに感謝することから始まった祭りや集落のコミュニティ文化は守られなければならないと思う。」「インストラクターの三浦さんは、気象予報士としての社会人の立場を捨てて、沖縄の自然保護に携わっておられることに感動。今できることからやっといこうとする行動力はすばらしい。塩分の多い海辺の困難な環境に順応したマングローブのような素晴らしさに共通する。文化とは、人

備瀬海岸のゴミ、みんなの努力で少しは減っているかな



八重岳センター比嘉先生の健康の話

間とは… 様々なことを考える原点がここにはある。」

「豊かな沖縄の海が危機にひんしている状況に人間の罪の深さを思う。できることから気付いた人が何かをやらなくてはならないと思う。」

大海原にこぎ出したカヌー軍団

日本女子大 今井志保さん

「自分ではどうしても解決できない問題に“なんくるないさ”と受け止める考え方になんだかすごくほっとした。」「人に出会うために参加したエコツアーだったが、たくさんの知識や考え方を教えてくださった先生方はもちろん、意識ある学生さんたちにもお会いできて刺激がもたらされた。このエコツアーの良さは、ただの観光ばかりを詰め込まず、参加者同士が話し合う時間を多く設けているところに魅



力があるのだと改めて感じた。」「沖縄はひとびとが毎日の生活を大切にしているから落ち着くことができる。沖縄流「なんくるないさ〜」の生き方で、毎日の生活を大事にしておしく思いながら、過ごしていきたい。」

日本女子大 本山恵さん

本島備瀬地区の「シヌグ祭で、魚を釣って飾ったり、ムラサキイモのお神酒（ノンアルコールで甘酒のような味）、タイコのリズムに合わせて、白装束の女性が不思議な動きをしたり、船を海へ出すしぐさ、清め火等とても神秘的だった。夜のお祭りは過疎化が進んでも、共同体の意識は変わらないと感じた。」「八重岳で「今回は自然農業をなぜ始めたか、人間らしく生きていくためにどういったことが必要か等、八重岳センターのご夫妻の言葉から、学ぶことができた。」

オバーにゴーヤチャンプルを習う

板橋区 環境協働推進係 佐々木千枝さん

「初めてのシュノーケリングで、すごくいいポイント（環境）でできたのはありがたかったです。またやりたい！ 実際に見たり体験したりしないとだめだなと思いました。」「ゴミ拾いについて。このゴミが捨てられた時の状況を考えてしまった。捨てた人の想像力のなさがっかりだけど、ツアーの仲間と協力して行う最初の作業だったので、連帯感、充実感を感じた。カヌー体験では自然学校のミッキーさんのお話が印象的だったし、3時間近く乗っていたとは思えないほど、アツと言う間だった。」「夜、備瀬のお祭りを見せてもらったのは貴重な体験だった。備瀬のみなさんに感謝。」「学生さん



東シナ海をバックに 八重岳訪問

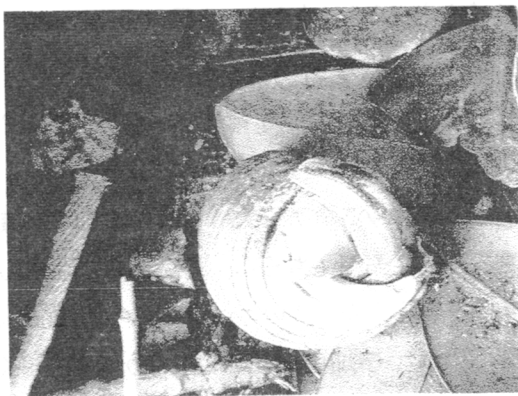
たちの気遣いや働きっぷりにすっかり甘えてしまいましたが、若いうちにこのような体験ができる彼らがうらやましいなと思ったり、これから社会に出る前の漠然とした不安も感じられたり、一緒に旅ができて良かったです。梶先生、本間先生のお話もなるほどな一と思うことばかりでよい経験ができました。」



法政大学 村山直仁さん

「このエコツアーは全体を通して、普段はなかなか触れることができないものにたくさん出会うことができるものだったと思う。思い出深かったことの一つ、八

重山センターのお話で、いかに自分自身で心身ともに健康を保つかというもの。「なんくるないさ」という考え方はいかにも沖縄らしい肩の力をほぐしてくれるものであり現代のストレス社会に有効な言葉ではないかと思いました。」「あんなにきれいな海なのに、ゴミがたくさんあることになくなりましたが、その下には大きなヤドカリがすんでいたりして生きものの力強さも感じました。」「カヌーに乗り、独自に進化したマングローブや 生きものたちを見て生命の不思議や神秘のようなものを感じました。」「いっしょに行ったメンバーも学校や職業、年代もバラバラで考え方も様々です。しかし、そのような人達が四日間共に行動して意見や感想を言い合い共有することで新たな考えも身につけることができたと思います。また、沖縄へみなさんと行きたいです。」



ゴミにかくれていた天然記念物
オカヤドカリの美しさ

法政大学 佐藤宏樹さん

「ゴミ拾いはとにかく量に驚かされました。個人で捨てているものももちろん多かったですですが中には個人のものとは思えないものもあり、企業の CSR が叫ばれている今、このようなことが平気で行われているのには大きな憤りを感じました。人生で初めてのシーカヤックは、初めは横に逸れたりなかなか進まなかったりなど苦労しましたが慣れてくると一緒に乗った方との息もあってきて、どんどん先に進めるようになりました。また NPO の方のお話もすごく勉強になるものばかりで、自分の通う学部勉強につながる非常に重要なテーマだったと思います。」「ツアーに同行した3歳の男の子は飽きることなく走り回っており、小さい子どもの力強いパワーを感じました。イルカのショーも想像以上で、その男の子もとても楽しそうにしており、その笑顔に癒されました。」

法政大学 赤堂星斗さん

「私は今回エコツアーに参加するにあたり場所が自分の出身地である沖縄県という事で沖縄の自然に触れ今までに感じた事のないものに出会えたらいいなと思い参加させて頂きました。そして、今回のエコツ



八重岳センターの自然食品の豪華料理をいただいて感激

アーの訪問地が北部の方で今までに訪れた事のないところが多くとても新鮮でした。」「備瀬崎海岸のゴミ拾いで汗を流し、地元の方の話を聞いて、まだ私の知らない沖縄の歴史や文化があってとても興味深かったです。」「私自身、初体験だったんですがカヌー体験がとても印象に残っています。マングローブに生息する生態系をこんなにも感じる事が出来て感動しました。沖縄に帰った時もう一度行きたいと思いました。そして夜はみんなで協力したバーベキューがすごく美味しかったです。」

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp